



だて正夢

登米地域の稲作通信 第2号

令和5年6月1日発行
宮城県米づくり推進登米地方本部
宮城県登米農業改良普及センター
Tel: 0220-22-6127



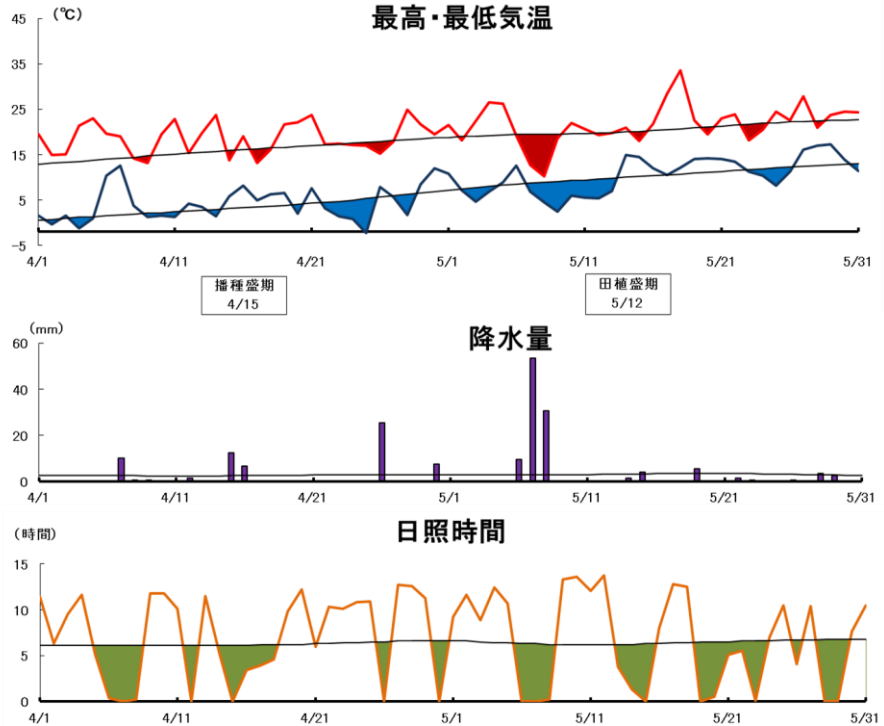
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

1 気象経過

4月は、上、中旬ともに平年値を超える暖かい日が続き、平均気温より2℃高い暖かい月となりました。日照時間は平年より多く平年比 114%、積算降水量は平年比 83%と雨の少ない月となりました。

5月は、6日に50mmを超える雨が降り、6日、7日ともに最高気温より6℃以上低い日となりましたが、その後は雨も少なく、気温も平年値以上の日が多く続きました。日照時間は平年比 102%と平年並となりました。

観測地点：米山アメダス



1か月予報（東北地方）：6/3～7/2 <令和5年6月1日 仙台管区气象台 発表>

期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。

2 生育状況

【管内の田植え状況調査】

地帯区分	田植始期		田植盛期		田植終期	
	令和5年	平年	令和5年	平年	令和5年	平年
北部平坦	5月4日 (-1)	5月5日	5月12日 (-1)	5月13日	5月21日 (+1)	5月20日
三陸沿岸	5月4日 (-4)	5月8日	5月13日 (-1)	5月14日	5月26日 (+5)	5月21日
管内平均	5月4日 (-1)	5月5日	5月12日 (-1)	5月13日	5月21日 (+1)	5月20日

※田植始期・盛期・終期は、それぞれ5%、50%、95%田植が終了した日。

※平年値は、過去5か年(平成30年～令和4年)の平均値。

【水稲生育調査結果(移植)】

No.	品 種	栽培 タイプ	調査 地点	栽植 密度 (株/m ²)	移植日	6月1日	
						草丈 (cm)	莖数 (本/m ²)
1	ひとめぼれ	Cタイプ	南方町	15.2	5月18日 前年比・差 ±0日 平年比・差 +1日	22.6 108% 103%	87 120% 112%
2	ひとめぼれ	Cタイプ	中田町	15.5	5月16日 前年比・差 +2日 平年比・差 -2日	25.5 122% 136%	68 79% 73%
3	ひとめぼれ	Cタイプ	登米町	16.1	5月16日 前年比・差 +6日 平年比・差 +3日	16.9 95% 95%	108 144% 130%
4	ササニシキ	Cタイプ (復活サニシ)	豊里町	15.8	5月12日 前年比・差 ±0日 平年比・差 +1日	26.3 100% 105%	71 135% 83%
5	だて正夢	-	迫町	21.7	5月21日 前年比・差 +4日 平年比・差 +2日	17.8 81% 77%	102 97% 85%
6	金のいぶき	-	登米町	19.5	5月9日 前年比・差 -5日	28.1 112%	101 104%

※栽培タイプ

Cタイプ：農薬・化学肥料節減栽培（慣行栽培の5割減；農薬8成分、化学窒素成分3.5kg以下）

※平年値は、過去5か年（平成30年～令和4年）の平均値。

※金のいぶきは調査3年目のため、前年値のみ

管内の田植は、始期(5%)は5月4日、盛期(50%)は5月12日、終期(95%)は5月21日で、始期、盛期は平年より1日早く、終期は1日遅くなりました。

5月8日前後に気温が低くなったものの、それ以降は最高、最低気温が平年値以上で推移し活着が進みました。田植え後の強風で葉先枯れが見られるほ場もありますが、生育への影響はないと思われます。

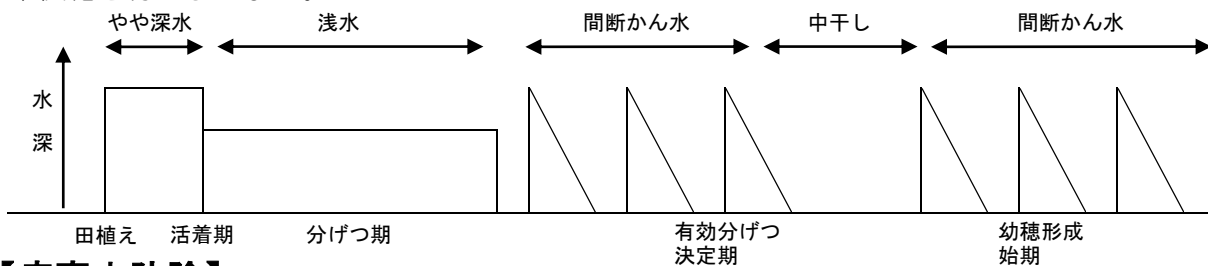
6月1日現在の各調査ほ場の生育は、分けつがまだ出ていませんが順調に成長しています。

3 今後の管理

【水管理】

水温や地温の上昇を図るため、水深2～3cmの浅水管理を行いましょう。表層剥離の発生が多く見られます。ごく浅水で管理しましょう。

生わらや未熟堆肥をすき込んだほ場では地温の上昇とともにガス（硫化水素）が発生し、生育が阻害されることがありますので、ガスが発生した場合は一時落水し、溝切りをして土壌への酸素供給を行いましょう。



【病虫害防除】

① いもち病

残苗（補植用苗）は、本田でのいもち病の発生源となりますので、直ちに、ほ場から取り除き、埋没してください。ほ場の水管理や草刈りの際には、葉いもちの発生に注意し、早期発見・早期防除に努めましょう。

<発生予報第3号 5月29日 宮城県病虫害防除所>

- ◆イネミズゾウムシ 発生時期は「やや早い（成虫本田侵入盛期 5月21日～5月25日）」
発生量は「平年並」
- ◆イネドロオイムシ 発生時期は「やや早い（ふ化盛期 6月6日～6月10日）」
発生量は「平年並」

② イネミズゾウムシ、イネドロオイムシ

箱施用剤を使用した場合は、基本的に本田での防除は必要ありませんが、発生がみられた場合、必要に応じ本田防除を実施してください。

③ 斑点米カメムシ類対策（草刈り）

斑点米カメムシ類防除の基本は耕種的防除（草刈り）と薬剤防除を、地域一斉に行うことです。効果的に防除を行い、カメムシ被害ゼロを目指しましょう。

主要種であるアカスジカスミカメの越冬世代成虫は6月上旬～中旬に発生し、特にイタリアンライグラスで繁殖します。

6月中旬までに、休耕田や雑草地・土手・畦畔等のイタリアンライグラス等のイネ科雑草を刈り取り、密度の低下に努めましょう。

【雑草防除】

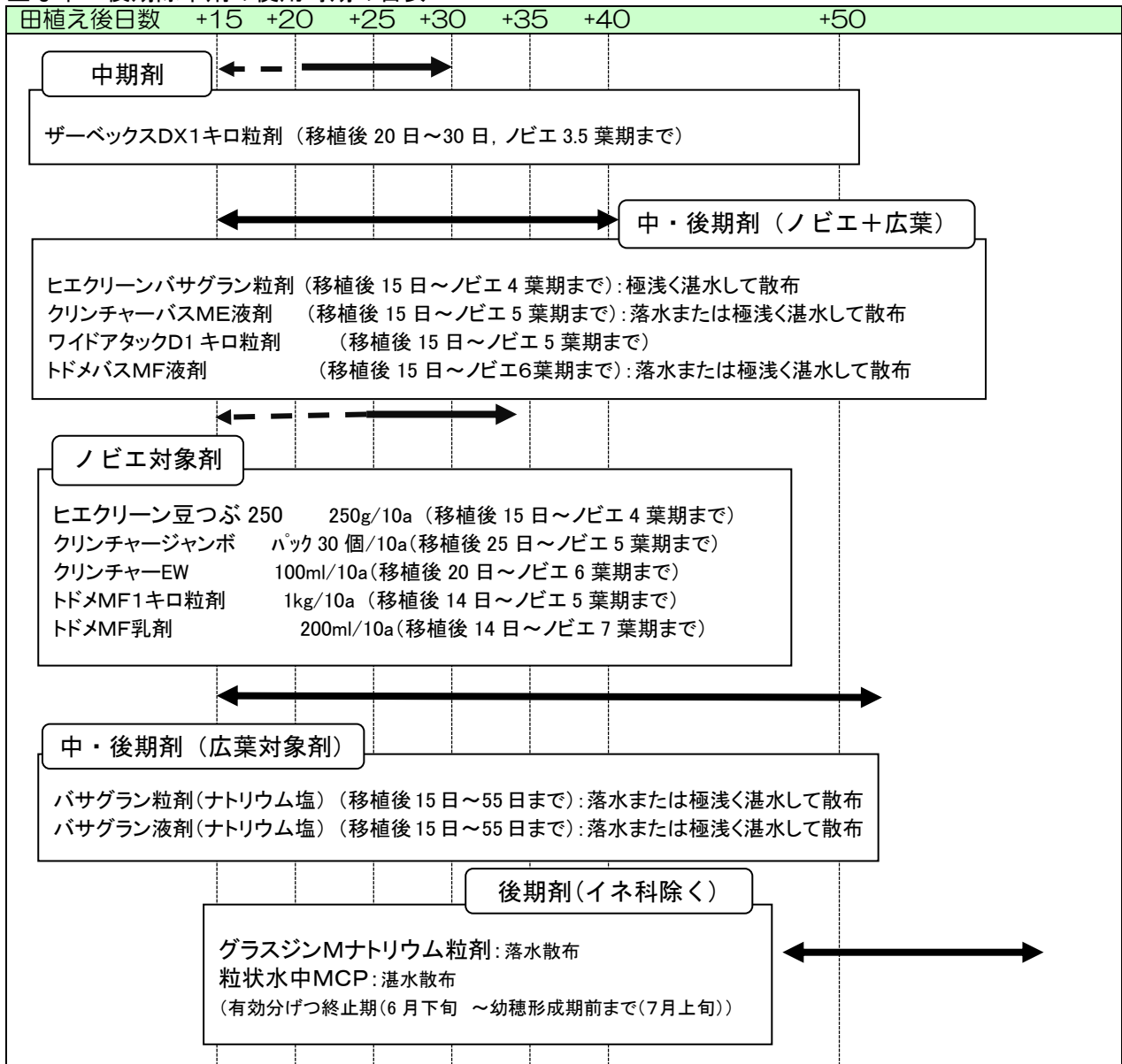
ノビエやイヌホタルイ等が本田内に残草すると斑点米カメムシ類を本田に呼び寄せてしまいます。本田内の除草に努めてください。

① 環境保全米の場合

環境保全米では使用できる除草剤が限定されています。残草してしまった場合は、まずJAにご相談ください。年々残草量が多くなっているようなほ場では、翌年以降のためにも一般米に切り替えて薬剤で徹底防除することを検討しましょう。

② 一般米の場合（環境保全米では使用できませんので注意しましょう）

主な中・後期除草剤の使用時期の目安



※記載した農薬情報は、農林水産消費安全技術センター農薬登録情報（2023年5月24日）現在の内容です。使用に当たっては最新の登録情報を確認の上、周辺の他作物への農薬飛散等に十分注意してください。

【上手な除草剤の使い方 1】

普及に移す技術第 89 号（平成 26 年）から

「除草剤専用展着剤サーファクタント 30 の加用によるクリンチャーEW のノビエ防除効果の安定化」

展着剤サーファクタント 30 を 10L あたり 10~30mL 加用することで、5 葉期を超えたノビエに対するクリンチャーEW の抑草効果が安定します。クリンチャーEW のノビエに対する抑制効果は、サーファクタント 30 加用により高まり、少水量（25L/10a）よりも標準水量（100L/10a）散布で効果が高まります。

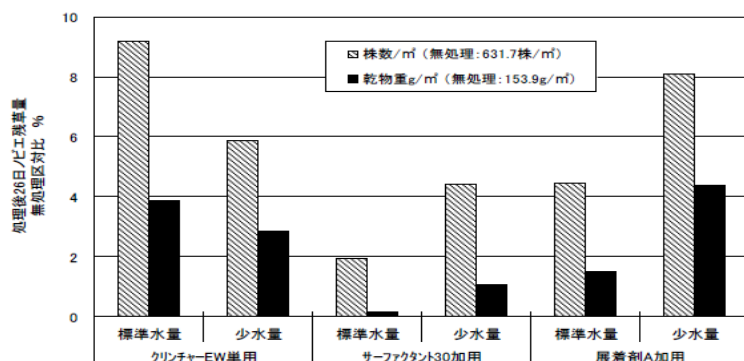


図1 処理後 26 日目におけるノビエ残草量

注1) 処理条件は図2脚注のとおり。

注2) 値は2反復の平均値

注3) 無処理区は30cm×1m, その他は120cm×1.8mについて抜き取り調査した。

【注意】ただし、薬害の恐れがあるので「クリンチャーパスME液剤」には展着剤を加用しないこと。

【上手な除草剤の使い方 2】

- 水稲用後期除草剤「トドメMF」は、ノビエに高い効果がありますが、広葉雑草には効果がありません。
- 粒剤はノビエ5葉期まで、乳剤はノビエ7葉期まで有効です。
- 乳剤は展着剤が不要で、耐雨性にも優れています。

③ 乾田直播の管理

出芽が揃った 1.5 葉期頃を目安に入水します。入水後、減水深が安定し次第、直播に登録のある初中期一発剤を使用時期に合わせて散布します。

その後、稲の生育に合わせて深水にしていくと、後発のノビエやクサネムの抑制に効果的です。

農薬の河川等への流出を防止するために、薬剤散布後7日間は落水、掛け流しはしないこと。

4月1日～6月30日は「春の農作業安全運動」期間です。余裕をもった作業で農作業事故を防ぎましょう。

6月～8月は「農薬危被害防止運動」期間です。農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。